



校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠

学級の落ち着きを維持するための10の心得!

学級全体の落ち着きを維持するために、私自身が教師生活の中で心がけてきた10の心得とは・・・。

1 決して児童のせいにはしない。

自分自身の児童への接し方のどこに至らない点があるのか？それをどう改善すればよいのか？という視点で自分自身を振り返り続けることです。

2 一人一人の児童の困り感に速やかに丁寧に対応し続ける。

児童が直面している困り感に担任が速やかに親身に対応してくれていることを実感した児童は、逆に担任を助けてくれたりもします。

3 児童にとって褒めて欲しいことを褒め続ける。

目についたよさを手当たり次第褒めるといふより、個々の児童が褒めて欲しいと思っていることを褒めます。これは児童をよく観察していないとできないことです。

4 児童に恥をかかせない。

例えば、忘れ物をしたことが学級の全員に分かるような指摘の仕方をしないことです。

5 頭ごなしに怒らない・怒鳴らない。

頭ごなしに「怒る・怒鳴る」は、いつの間にか効き目なしです。いくら大きな声を出しても、児童のざわつきはそれを上回り、結局收拾がつかなくなります。

6 声の大きさ・調子・速さを意識して話す。

大きな声で話すことよりも、児童の耳に心地よい声の大きさ・調子・速さを模索しながら話すようにします。声が大きければいいというものではないのです。

7 注意喚起は表情や合図、ボディランゲージを使って

1～5のことができていれば、声で注意しなくても表情や合図、ボディランゲージで十分注意喚起のサインは伝わります。大声を出さなくても児童をピリッとさせることはできます。

8 話は短く!

長い説教、一方的な長い話はNGです。

9 自分が受けて楽しいと思える授業を追究し続ける。

教師自身が児童の身になって受けて楽しいと思える授業を児童に提供し続けることです。

*そのためのツールとして、タブレットもどんどん活用することです。

10 45分間という授業時間を1分たりとも無駄にしないという意識で授業に臨む。

課題が早く済んだ児童に読書をさせたり自由帳を書かせたりして時間を過ごさせようとするのはNGです。45分間、教師自身もしっかり授業に向き合うことです。特に配慮の必要な児童の場合には例外もあり得ますが・・・。